

令和5年度 第1回和光ブランド認定推進委員会議事録

日時 令和5年7月12日(水) 10:00～

場所 和光市旧保健センター 会議室1

出席委員 1号委員 郭 洋春 (立教大学 経済学部 教授)

西田 英樹 (西田公認会計士・税理士事務所 代表)

2号委員 岡崎 治 (和光市商工会 商業部会長)

3号委員 森 洋子 (猫森キッチン主催 料理研究家)

4号委員 加藤 雄大 (公募委員)

(事務局)

市民環境部次長兼産業支援課長 平川 京子

産業支援課課長補佐 大里 裕美子

産業支援課産業育成支援担当統括主査 南雲 圭介

産業支援課産業育成支援担当 山本 佑美

欠席委員 2号委員 牛場 寛 (あさか野農業協同組合 和光支店 支店長)

3号委員 関谷 滋 (有)ヴァル・クリエイティブエージェンシー 代表取締役社長)

4号委員 小林 美也子 (公募委員)

傍聴者 0人

議事内容

(1) 和光ブランド認定審査(更新含む)における評価(採点)方法について

ア 新規認定

事務局より前回の委員会の意見を反映させた和光ブランド認定審査評価表【新規用】事務局案を説明。

(西田委員) 特段の意見はないが、評価基準について、3段階評価ではなく5段階評価の方が評価しやすい。どういった経緯で変更したのか。

(事務局) 現行の評価基準での採点のしづらさについて、1つは5段階評価によるものではないかと考える。3点「取組が認められる」と2点「少し取組が認められる」の評価の違いが難しい。また、最終的に評価点の幅が広がってしまいばらつきが生じてしまう事実があった。

(西田委員) 前回の更新審査会では商品等を知らないから細かい点数をつけるのが難しかった。評価基準の配点の問題ではなく、商品等を知る時間やプレゼンテーション等で実際の商品等を持ってきていただくことが必要だと考える。

(事務局) ご指摘のとおり、前回の更新審査では事業者によるプレゼンテーションや商品等を持ってきていただくことはしなかった。次回以降新規認定の審査及び認定期間の更新の審査では、事業者を呼んでプレゼンテーションをしていただいた上で評価していただくこととしたい。評価基準についての5段階評価、3段階評価について引き続きご意見を頂きたい。

(郭委員長) 新規認定の審査の際は、必ず実際の商品を持ってきていただき、プレゼンテーションをしていただいている。前回の更新審査では、そこを省いて審査を行った。

(西田委員) 商品等を知ることができれば、5段階評価でも良いと考える。

(郭委員長) 和光ブランド認定基準の「1 和光らしさ」について、特に工芸品はこの評価項目に当てはめにくい。この項目についてご意見を頂きたい。

(西田委員) 前回審査を行った商品も和光の食材を使っているわけではなく、和光市に長年いて和光に親しみがあるという点において和光らしさをうたっていた。和光らしさには結び付けにくい。

(郭委員長) ブランドの作り方には、1つとして、もともと和光にあるものを活用し、内的なものから生まれてくるかたちでブランドを作るもの、もう一つは、既存の商品等をブランド化することによって和光市の知名度もあがるかたちの2パターンがある。例として、湯布院の絵画や池袋のアニメが挙げられる。歴史、伝統の視点を残しながら、別の角度としてブランド化したらおもしろいと思う。

そういう意味では、現在の「4 市場性・将来性」の評価項目のうち「観光資源として、魅力ある要素を有している。」「和光市に対するイメージ向上への貢献が期待出来る。」を、「1 和光らしさ」の項目として、2本立てにしたら良いのではと考えるが如何か。

(森委員) 2本立ての評価項目の改善案に賛成である。

(加藤委員) 評価基準については、3段階ではなく、5段階のままの方が良い。3段階だと曖昧度が高くなってしまう。食品等に偏っている評価基準になっているので、和光らしさがあるのか、結果として和光から発信したいのかの2軸が良い。実際に商品等に触れて評価がしたいのでそこは改善してもらいたい。

(郭委員長) 出た意見を参考に次回の委員会で改めて審議することとする。

イ 認定更新

事務局より和光ブランド認定審査評価表【更新用】事務局案、【調書】和光ブランド認定更新申請用事務局案を説明。

(西田委員) 商品そのものの実力や製造方法などは変わらないので、更新の審査は「1 和光らしさ」から「4 市場性・将来性」までは簡素化してもよいのではないかと。どのように和光市やブランドの認知度向上に努めたか、成果を重点的に評価出来れば良いと考える。

(郭委員長) 資料5事務局案をみると、更新申請する以上はある程度販売と周知に力を求めるものとなる。

評価表「1 和光らしさ」、「2 独自性・優位性」、「3 信頼性・安全性」は新規認定の際に評価しており、更新認定の際は重複するため不要なのではないか。

「4 市場性・将来性」、「6 認定期間中の活動の評価」、「7 認定更新後の事業展開」の認定後の評価に基準のウエイトを置くのはどうか。資料5地域外への発信の項目は、SNSの活用になると考えるが、すべての事業者が活用しているとは限らないので、表現は改めたほうが良いのではないかとと思うが如何か。

(西田委員) 地域外への発信は将来的には必要であり、全国的に広まればふるさと納税にも繋がる。SNS等の積極的な活用は、販売、活動していく上で重要な要素だと考える。

(郭委員長) 新規認定の際に、認定された場合に求める評価項目は示す必要があるのではないかと。また、評価基準を今回変えてしまうと、現認定事業者には更新認定時に厳しいところがある。過渡期として、柔軟な対応が必要ではないか。

(岡崎委員) 企業努力は必要であり、和光ブランドとしても認定後も努力は必要だと考える。

(郭委員長) 和光ブランド認定後は、自助努力で売上を伸ばすことを理解していただいた上で活動していただき、更新認定していくことが必要だと考える。

(森委員) SNS活用は必須。やっていなければやる努力を勧めることも必要だと考える。
朝霞市のアサカストリートテラスというマルシェが大変盛り上がっている。和光市、新座市の近隣のお店も出店している。プチマルシェではなく巨大マルシェで、若い世代が出店していて若い世代が押し寄せる。商店街も巻き込んでいて、SNSの発信力がすごい。やはり、若い世代の意見を取り入れることが必要だと考える。和光ブランドとして認定されたのであれば、SNSを活用していく必要があると考える。

(加藤委員) 和光ブランドに認定されて何が変わったのか。認定されたことによるお客様の声、また、市としての改善にも繋がるため、和光ブランドに対する思いや要望の記述があったら良いと考える。

(郭委員長) 評価基準が3段階といった点はどうか。

(各委員) 従来どおり5段階が良いと考える。

(郭委員長) 出た意見を事務局で精査して、評価基準の見直し、更新認定における評価項目を考えてもらいたい。また、既存の認定事業者と新規で認定される事業者への配慮についてもお願いしたい。

(2) 和光ブランド事業の課題と今後の展望について
事務局より説明。

(岡崎委員) 商工会では、駅前イベントとしてマルシェを開催している。商工会としても引き続き和光ブランド事業に協力したい。

(森委員) アサカストリートテラスについて、昨年夏、秋とすごい集客だった。若い世代が行きたいという意識が起こるおしゃれなマルシェを展開している。和光らしい昔ながらのお祭りもよいが、近隣からより多くの人を呼び込むには、若い世代向けのおしゃれさは必要だと考える。

(郭委員長) シティプロモーションというと、まち自体のイメージを向上するという考えになるが、既存のハコモノで実現するには正直難しいので、イベントができるような新しい空間が必要。コンセプトとして、見て食べて体験して、こどもからお年寄りまで1日中楽しめるような場所が必要である。場所といっても単なるスペース作りではなく、仕組み作りということ。そのような空間が定期的に作られていくと良いし、それによってイメージ向上に繋がる。それがシティプロモーションの在り方であって、単なるマルシェではなく、そこに人が集まる空間作りが大切だと考える。

和光市が、今後の都市計画の一環としてそういった仕組みを作り、そこに和光ブランドを出すことができれば、事業の課題でもある認知度について、より一層上がることに繋がると考える。そのような取組をしている自治体も増えてきている。一見無駄と思えるスペースを活用して、集客が見込める企画ができる場所に繋げていくという、シティプロモーションの1つのきっかけとなれば良い。

10月からは、組織が変わるということで、出た意見については今後の課題解決と事業展開が行えるよう、しっかりと引き継いでいただきたい。

(3) その他

事務局より令和4年度和光ブランドの活動状況及び売上報告を説明。

(岡崎委員) 和光ブランドに認定されてから、売上は伸びているのか、市として把握しているのか。

(事務局) 認定期間中についての売上額の推移は毎年調査し、把握しているが、認定前、認定後の比較調査はしていない。

(岡崎委員) 新倉まんじゅうについては、今後どうしていくのか。

(事務局) コロナの影響でイベント等の中止により、販売、普及啓発の機会を失っている。しかしながら、コロナの5類移行により、イベントが復活しつつあるため、地域のイベント、特にコミュニティセンターまつりの出店、販売予定があると聞いている。

(岡崎委員) イベントの時だけの販売か。

(事務局) 基本的にはそういった団体である。

(西田委員) 新倉まんじゅうは、古くから伝統的に引き継がれているような価値あるものなのであれば、市として、下支えしてあげないと衰退していってしまう。

(郭委員長) 今後の課題が上がったところで、次回引き続き、議論願いたい。本日の議事はこれで終了する。

(事務局) 次回の委員会は、令和5年8月21日(月)以降の開催を予定(更新認定審査、新規認定審査)